

皆さんお元気ですか 最近の近況報告です

北見赤十字病院 名誉院長 特別顧問
北見医師会 会長
吉田 茂夫

新型コロナウイルス感染症のため、皆様とお会いできませんが、今回このような原稿依頼が逢坂会長様からあり、ご挨拶と最近の近況をご報告させていただきます。

いつも職員や研修医の為に、愛情あるご厚意をいただいておりますことを感謝申し上げます。私自身は、院長職を退きましたが、病院のご配慮により特別顧問として、内科外来や緩和病棟の患者さんにかかわらせていただいております。院長時代の病院財政や医師確保などの重荷から解放され、ずいぶんと楽になりました。また、縁がありま

して、北見医師会会長として、管内の医療問題にも携わらせていただいております。紙面の都合もあり、北見地域の現存的な問題である、
①新型コロナウイルス感染症対応について
②医師会としてのウクライナ戦争対応
③北網二次医療圏の将来構想である地域医療構想の3点について書かせていただきます。



は北見赤十字病院、道立北見病院、網走・遠軽厚生病院、広域紋別病院と置戸、小清水の赤十字病院、更に管内の診療所等の医療機関が連携・協力しながら、保健所や各市町村、そして医師や看護師などの医療関係職の並々ならないご努力によってコロナ感染者の対応にあたっております。幸い、医療崩壊を起こすことなく、何とか医療体制を維持できているのは、皆様の感染予防対策に加えて、こ

うした医療機関や行政などの方々のご努力によるもので、改めて敬意と感謝申し上げます。
医療先進国と思われていたアメリカにおいてコロナ感染による死者は100万人を超え、そして25万人の子供たちが親や養育者を失っております。アメリカ人研究者から、同じ市内でも、居住する地域での貧富の差で死亡率に有意な差を認め、貧困地域の無保険者が早期に医療機関にかかることが

出来ない医療格差問題があると報告されておりあります。幸い我が国では「国民皆保険制度」により国民がいつでも、等しく医療が受けられます。北見医師会としては会員の協力により、北見市PCR検査センターの立ち上げや、ワクチン接種に努めてきました。スピーディーに接種が進められ、特に高齢者の施設入所者や人工透析患者さんへのワクチン接種を速やかにすることができ、死者数を抑えられたものと思っております。他方現在、経済活動の活発化に伴って、感染者数が高止まりしており、今後「三密」対応は必要であるかと思っておりますのでよろしくお願ひいたします。

事侵攻をし、世界中を驚かせました。北見医師会では、「ロシアのウクライナからの撤退、子供たちへの攻撃」に対する批判決議をいたしました。丁度、日本医師会としても同様な決議を、同時期に行っていましたので、北海道医師会に私たちの決議文を手渡し、併せて寄付金を日本医師会に送金致しました。これらの寄付金は医薬品・医療物資として必要な地域に送られているとのこと。一日でも早く戦争が終わることを願っております。

我が国の国民皆保険制度は日本の宝であります。我が国が人口減少社会となり、北見市も将来10万人を切ることが推定されています。しかし、現在の国家財政下では、医療提供体制をこのまま維持することは困難であるとされております。そこで、国は必要な医療体制の構築に向けて各地域で議論をするよう、地域医療構想調整会議を二次医療圏ごとに設置しました。医師会としては、現在の医療提供体制が将来も続くよう、良い議論をしたいと思っております。今後関係機関の方々と連携して取り組んでいきますが、地域の方々の理解なしには進めることはできませんので、今後とも、支援する会の皆様方にはご協力をお願いいたします。皆さんと一緒に良い地域づくりができれば嬉しい限りです。最後まで読んでいただき感謝いたします。

北見管内における新型コロナウイルス感染症対応について

ウクライナ戦争に対する北見医師会の対応

今後の北網地域での地域医療構想について